

NPT再検討会議に参加します

核兵器も原発も人類とは共存できない

福島県浪江町議会議員 馬場 績

2011年3月11日から4年が過ぎました。

私は、世界最大の公害事件ともいえる東京電力福島第一原発の爆発事故で、2万1000人の町民が今も避難生活を続ける、福島県浪江町から来ました。いまなお約12万人の福島県民が自宅に帰ることができず避難生活を続けております。

これまで国も東京電力も原子力発電所は「万一事故が起きた場合でも原子炉を「止める」、「冷やす」、「閉じ込める」仕組みに作られており、万一の事故が起きても、原子炉を自動的にとめることができる。原子炉の爆発事故は起きないし、放射性物質の環境放出はありえない。」だから「安全」と言い続けてきました。

ところが2011年3月11日、太平洋三陸沖で震度6強、マグニチュード9.0の地震が発生。約1時間後に15メートルを超える大津波が押し寄せ、全電源が喪失してしまいました。そして何の防御装置も機能することなく福島第一原発1号炉、3号炉、2号炉と爆発事故が起きたのです。

原子力発電は未来のエネルギーなどという「安全神話」は完全に崩壊したのです。

私の自宅は爆発した原発から約25km離れたところにあります。今でも自宅周辺の空間線量が13 μ Sv/h、それ以上のところもあります。周辺の農地、山林、水も広範囲に汚染されております。元の環境に戻るまでには、長い年月、おそらく50年から100年はかかり、残念ながら私が生きているうちに戻ることは不可能でしょう。

この爆発事故で放出されたセシウム137は、広島型原爆の168倍と言われております。

「フクシマ」の原発事故で明らかになったことは、核兵器も、原子力発電も核爆発の原理は共通していることです。人々の生活と環境を破壊し、膨大な死のエネルギーを持っていることです。死の恐怖を伴うことです。

世界中の人に呼びかけます。ノーモア広島・長崎！！ ノーモア福島！！